

ドン・ジョヴァンニのお話

モーツァルトのオペラ「ドン・ジョヴァンニ」は、単なる女たらしの話ではありません。モーツァルトの掲げる「自由・平等・博愛」という3つの精神の中の「自由」を謳った作品なのです。では、この「自由」とは何か。それは、この作品が生まれた当時の人々を縛っていた宗教、政治、モラルといったものからの解放です。1幕フィナーレで「自由万歳」と高らかに歌われる場面は、聴きどころの一つです。

「自由」の精神を体現するスペインの大貴族**ドン・ジョヴァンニ**が主人公です。彼は常々「俺は広い心の持ち主だから、老いも若きも、ふっくらもほっそりも、分け隔てなくすべての女性を愛する」と言っています。

このオペラに最初に登場する女性は、騎士長の娘**ドンナ・アンナ**。ある夜、アンナのもとに忍び込んだドン・ジョヴァンニは、娘を救おうとする**騎士長**を殺してしまいます。これがドン・ジョヴァンニの犯した本当の罪で、彼の運命を決めることになります。アンナは、**ドン・オッターヴィオ**という父の決めた婚約者と共に父の復讐を誓います。

次に登場する女性は、**ドンナ・エルヴィーラ**。彼女はドン・ジョヴァンニを愛し続け、追いかけて、改心を迫りますがそれも成らず、最後には修道院に入ります。

3人目の女性は村娘の**ゼルリーナ**。**マゼット**との結婚式に偶然居合わせたドン・ジョヴァンニに口説かれ一瞬フラフラとしますが、愛するマゼットの元に戻ります。

もう一人、このオペラの重要な登場人物は**レポレッロ**です。彼はドン・ジョヴァンニの従者。ご主人のせいで何度も酷い目に遭いますが、それでも心の底でドン・ジョヴァンニに憧れていて、つき従い続けます。

ある夜、二人がいつものように女の話をしていると、騎士長の声が聞こえます。そこは騎士長の石像が立っている墓地だったのです。レポレッロが止めるのも聞かず、ドン・ジョヴァンニは騎士長を晚餐に招待、晚餐に現れた騎士長の石像は改心を迫りますが…

